

音のない世界で輝くアスリートを応援！ 東京2025デフリンピック応援イベントを開催しました

11月に行われる「東京2025デフリンピック」に向け、TAC杉並区永福体育館で7月19日(土)に、杉並区ゆかりのデフアスリートらを迎えて応援イベントを開催しました。

イベントでは、デフ陸上、デフ卓球、デフビーチバレーボールの競技体験を通じたデフアスリートと参加者の交流のほか、都立中央ろう学校(杉並区)の生徒による、名前やデフリンピック競技の手話をレクチャーする手話講座や、手話の普及啓発として手話を知るコーナーが設けられました。手話を知るコーナーは、指文字スタンプを活用した名刺づくりや、区で導入している遠隔窓口手話システムの体験など手話を身近に感じられる内容となりました。

また、メインステージでは、きこえない・きこえにくい人を中心にしたメンバーでデフアスリートたちと共に開発した「サインエール」の紹介があり、デフアスリートと参加者が一緒にサインエールを体験し、盛り上がりを見せました。

そのほか、デフアスリートのトークショーが2回行われ、1回目は、2017デフリンピックで金メダルを獲得したデフ陸上の山田真樹選手やまだまきら都立中央ろう学校卒業・在学の選手が登壇し、杉並区での学生生活など、思い出話に花を咲かせるとともに、直前に迫るデフリンピックへの思いや意気込みについても、熱く語りました。2回目は、杉並区出身のアスリートである、デフ卓球の亀澤理穂選手かめざわりほとデフビーチバレーボールの伊藤碧紀選手いとうたまきが登壇しました。お二人は、デフリンピックへの意気込みのほか、デフリンピック東京開催後の社会がどう変わってほしいかなどを語りました。

今回のイベントでは、デフ競技だけでなく、手話を身近に感じる機会となりました。区では、今後もさまざまな機会を捉えて、共生社会の実現に向けて取り組んでまいります。

【亀澤選手のコメント】

デフリンピックや障害者スポーツは環境が整っていない部分もあり、良くするためにはもっと知名度を上げていく必要があります。将来の子どもたちや選手たちのためにも、さまざまな場所に行き、課題も伝えながら普及に努めていきたいです。

【障害者施策課・矢花伸二課長のコメント】

今回のイベントを機に、きこえない・きこえにくい人、手話への理解がより進むことを期待していますし、区では手話をはじめ、意思疎通に関する取組をさらに進めてまいります。また、東京2025デフリンピックが盛り上がるよう、区内で行われるイベントを通じて、引き続き普及啓発を図ってまいります。

【報道機関 問い合わせ先】

障害者施策課 03-3312-2111 内線1141
広報課報道係 03-3312-2111 内線1574